



FUKUSHIMA 市民インタビュー

このコーナーでは、福島市のさまざまな分野で活躍する人や団体を紹介します。今回は、吉井田地区で「こんにちは赤ちゃん応援隊」(P22参照)として活動される佐々木圭子さんにインタビューしました。



吉井田地区の「こんにちは赤ちゃん応援隊」の皆さん
左から、野口とよ子さん・佐々木圭子さん・唯木朋枝さん

🍀 始めたきっかけと活動内容は？

平成21年に、こんにちは赤ちゃん訪問事業が始まった当時、ファミリーサポートセンターのアドバイザーをしていたため、立ち上げのメンバーとして声を掛けていただきました。もともと学習センターの家庭学級で活動したりと、ずっと子育てに関わってききました。

私の地区では、月に2〜4件ほどのご家庭にお伺いしています。近くの保育施設や遊び場の情報などをお伝えしたり、発育の過程に合わせたアドバイスや、お悩みの相談をお受けします。気になることがあれば、市の保健師さんに報告し、専門

的なアドバイスや応援をお願いする場合もあります。家庭と行政や専門機関の懸け橋のような役目ですね。現在100人の応援隊が活動しています。

🍀 どんな相談が多いの？

ミルクの飲ませ方や体重の増え方など、発育に関する内容が多いですね。離乳食やベビー服などの相談もあります。他の赤ちゃんと比べたり、どの情報が正しいのか迷う方も多くいらっしゃいます。

年2回の全体研修や、応援隊同士で情報を共有し、良き相談相手になれるよう勉強もしています。

🍀 大切にしていることは？

お母さんお父さんの中には、私たちの訪問を不安に思われる方もいます。なので常に「笑顔」で訪問し、「おめでとう」と「応援」の気持ちを伝えるようにしています。電話ではなく顔を合わせ、ゆっくり安心してお話できるのが、良いところだと思います。

また、出産直後は人と話す機会が少ないお母さんも多く、寂しさや不安を少しでも解消したいと思いつながら話しています。特に最近では核家族や転勤で来られた方も多いため、「地域の応援」を感じてもらいたいですね。



▲訪問先でのお母さんの笑顔が喜びです

🍀 活動してうれしい瞬間は？

8年間活動していますので、初年度に携わった赤ちゃんは小学生になっています。街で、以前訪問したご家族に声を掛けてもらうことも多いです。私たちのアドバイスやお話を通して、親御さんが喜んだり、安心した表情が見れるのが何よりも励みです。

🍀 今後の希望と目標は？

もっともっと赤ちゃんが増えるとうれしいですね。赤ちゃんが多いのは未来があるということ。安心して赤ちゃんを産んで子育てできる環境づくりにこれからも関わっていきたくです。福島市のお母さんお父さんたちには100人の応援隊が付いていますよ！

市長コラム No.11

「For the future of the earth」地球の未来のために

福島市長 小林 香



「第1回世界ご当地エネルギー会議」が11月3・4日の両日、福島市で開催されました。この国際会議は、地球温暖化対策の新たな国際的枠組み「パリ協定」の締結から1周年を迎えるにあたり、地域主導による再生可能エネルギーの普及促進や国際的なネットワークづくりを目指して開催されたものです。

長として参加し、本市の取り組みなどについて発表してきましたが、そのことが一つの契機となり、今回、福島市での開催が実現しました。会議では、国内外の専門家などが自然エネルギー導入の意義や課題について意見を交わし、最終日には「福島ご当地エネルギー宣言」を採択し、世界中とネットワークして、地域で実践していくことなどが表明されました。



▲100%自然エネルギーに向けた都市や地域のリーダーシップとネットワークについて7つの自治体の首長などで意見を交わした分科会

国内のほか、再生可能エネルギーの先進地であるドイツやデンマーク、スウェーデンなど海外30カ国から、首長や専門家など計624人が参加しました。昨年11月にドイツで開催された「自然エネルギー100%地域会議」に市

今回の国際会議を機に、市民や事業者の皆さんとの連携をさらに強化するとともに本市の地域特性に合った再生可能エネルギーを推進し、「環境最先端都市 福島」の実現に取り組んでまいります。